



若き光

題字：第56代
高麗大記

令和3年2月23日
発行：高麗神社々務所

「高麗神社と日高市」日高市長

谷ヶ崎 照雄



日高市で連想するもの：現在は巾着田の曼珠沙華が有名になりましたが、やはり、出世開運の高麗神社だと思います。毎年、高麗神社での初詣は欠かしたことがなく、年に何度も参拝させていただいております。

これまで高麗郡建郡から一三〇〇年もの長い間には、時代とともにたくさん歴史が刻まれていることと想像いたします。高麗氏系図からも初代の高麗王若光から現在までの第六十代の文康宮司まで途切れることなく連綿と受け継がれており、高麗神社・高麗家に残る文書や市内にあるたくさん文化財などから歴史が紐解かれていくことに浪漫を感じます。

また、文康宮司をはじめ、関係者の皆様により、「一般社団法人高麗一三〇〇」の設立から、高麗浪漫学会（現日本高麗浪漫学会）を誕生させ、平成二十八年には先代宮司の悲願であった「高麗郡建郡一三〇〇年記念事業」を成功に導かれたことに対して敬意を表します。

氏子会 活動紹介

氏神社は、自らが居住する地域の氏神様をお祀りする神社であり、この神社の鎮座する周辺の一定地域に居住する人々を氏子と言います。高麗神社の氏子区域は、大宮・高岡・新井・栗原南部・栗原北部・楡木・本所野口・稲荷道・藤川であり、その中から現在約200戸が会に属し、例祭や獅子舞奉納を始め年間に行われる様々な行事への参加や運営をしながら、伝統文化護持の一端を担っています。

高麗神社 氏子会 《青壮年部》

はじめまして！ 氏子会青壮年部部長の太田文悟（おおた ぶんご）と前島永国（まえしま ひさくに）です。

伝説の青壮年部長 石井直（いしい ただし）さんから次期部長としてどちらか引き継ぐようにと言われ、前部長の働きぶりを知る私達は怯え上がり、終わりのなき譲り合いの合戦となつてしまいました。そのため、二人で協力



左：前島 部長 右：太田 部長

してやっつけていこうという結論となり共同部長となりました。どちらも部長として活動しておりますので、どうぞよろしくお願いたします。まずは、私達二人の自己紹介をいたします。大宮組 太田文悟 生まれは遙か彼方、大阪の池田というところであります。縁あってこの地に来て十六年、氏子会青壮年部へとお誘い頂き、広くこの地域の方々と知り合えたのは本当に良かったと思っています。

平成二十九年九月には、

天皇皇后両陛下下行幸啓の機会をいただき、高麗神社への参拝と高麗家住宅の視察の後、巾着田曼珠沙華公園をご案内させていただきました。私にとつてこの上なく名誉なことであり、生涯忘れることのない記憶となりました。（写真下）



巾着田 曼珠沙華公園

さて、本年日高市は、市制施行三十周年を迎えます。四月から「第六次日高市総合計画」をはじめとして、さまざまな計画がスタートいたします。本市の新たな将来都市像である「誰もが安心して住み続けられる ふれあい清流文化都市 日高」の実現に向けて、日高市が一〇〇年後、二〇〇年後と着実に発展するよう、今後もスピード感を持ち、魅力あるまちづくりに「誠心誠意」取り組んでまいります。

高麗郡建郡の新たな一〇〇年に向けて活動されている高麗神社並びに高麗神社氏子会の皆様方とともに、日高市の歴史を作ってまいりたいと思います。何とぞご支援、ご協力をお願い申し上げます。

高岡組 前島永国 太田部長と同じく、日高高麗は十五年前に妻の実家があった縁から終の棲家となりました。鈴木八蔵さんの隣家と言え、すぐに伝わると言います。

私達 青壮年部は、OB会や婦人部と協力し合い、各お祭りや盆踊り大会のお手伝い、正月の駐車場整理ご奉仕等の活動をしております。その中でも最大の使命は、例大祭での付け祭り主催です。神楽殿ステージでの演芸や花火、そして豪華賞品が当たる大抽選会を企画し、祭りまでの数日間、外の獅子習いの音をBGMに準備しております。

私達は、皆仲良く楽しく、少しのお酒とともに活動しておりますが、近年は部員が少なく大変さみしい状況ですので、氏子の皆様には、引き続きのご協力をお願いいたします。



10月19日 例大祭付祭り 大抽選大会
神楽殿上 手前の大きな背中が太田 現部長



例大祭付祭り 大抽選大会の様子
8時過ぎだが大勢が集まり賑わっている

本稿は三回皇族王公族の御参拝を興味深いエピソードと共に取り上げた。皇族編の最後は「御参拝」ではなく、皇族御参拝の呼び水と思われる出来事である。

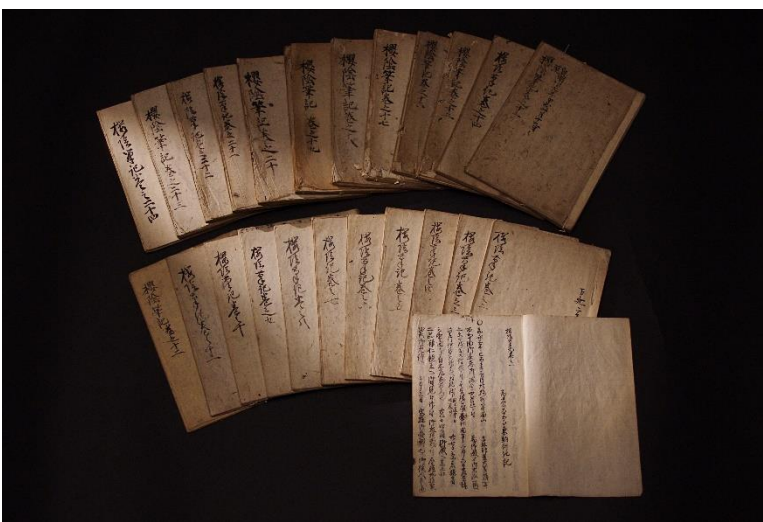
高麗家五十六代大記は文政九年（一八二六）に生まれ、嘉永二年（一八四九）父明純から大宮寺別當職と大宮社（当時の高麗神社の呼称）の祭祀を継いだ。しかし、明治元年（一八六八）新政府による神仏判然令発令を機に大宮寺を廃業、復職して神職となった。



高麗大記

のが、当社に伝わる社家高麗氏の系譜を記した『武蔵国高麗氏系図』（後、『高麗氏系図』と記す）であった。大記は十七日「妻子共一同行幸拝二行」き、二十日には提出の古物の返却を受けた。

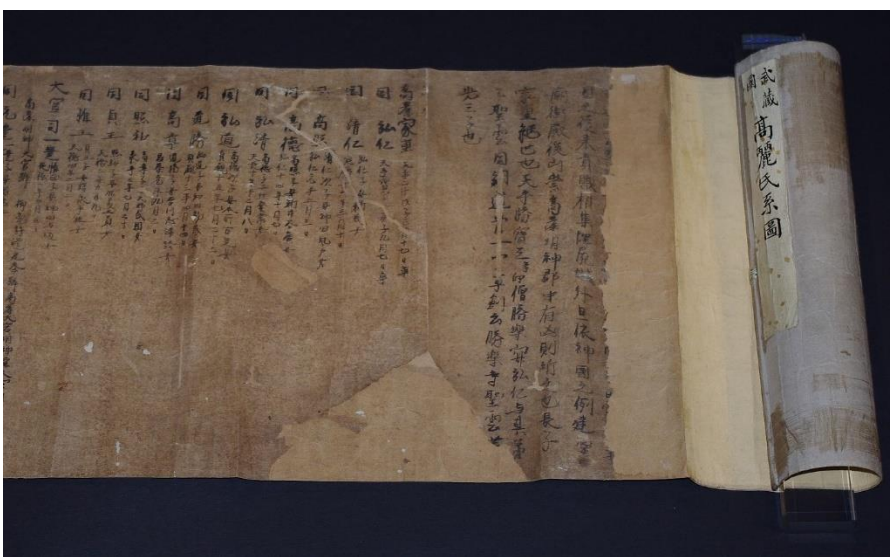
大正元年十一月十四日大正天皇は陸軍特別大演習統裁のため、大本営となった埼玉県立川越中学校（現県立川越高校）に着御された。大正天皇の行幸に合わせ、大本営には『高麗氏系図』を含む県下物産の数々が並べられ、翌十五日には天覧に供した。大正元年十一月十七日の国民新聞はこの模様を「連綿二千年 知事高麗村の事蹟を奏上」と題し報じた。それによると、御前に召された島田剛太郎埼玉県知事（当時）は高麗村の成り立ちを奏上し、面目をほどこしたという。仮に



桜陰筆記

大記は家督相続から逝去前日の明治三十三年三月一日まで五十二年間、『桜陰筆記』と称する日記を認めた。後裔がその日記をめくると時折、思わぬ「家史」に出会うのである。

島田知事が高麗郡の歴史を奏上したとしても、それは県下物産品陳列場に並ぶ展示物をご案内した折であろう。ましてや高麗村についてのご説明な



高麗氏系図

明治十六年（一八八三）四月十三日には（前略）近日飯能江行幸二付、古物類入、天覧へきたため、郡長より達有之、因テ神社宝物鏡一面太刀一口駒角一本目録付家蔵之独古唐獅子古筆般若三巻目録付今日差出候事」とある。明治天皇の飯能行幸は同年四月十七日（十八日）で、陸軍演習統裁のためであった。一説によれば、戊辰戦争（飯能戦争）により災いを受けた飯能民心慰撫のため、同地が選ばれたという。この行幸で天覧に供するため、高麗神社及び旧大宮寺の「古物」を提出したのである。しかし、その日の夜には再び高麗郡役所から「系図可差出旨二付」使いがあり、翌朝再び飯能に出向いた。この時追加の要請により天覧に供した

らば『高麗氏系図』天覧に合わせての奏上と考えるのが自然である。

昭和二十三年六月三日大正天皇妃貞明皇后は高麗川駅頭より当社を遙拝、幣帛料を下賜された。以後、昭和三十七年三月二十五日にはその御子であらせられる三笠宮崇仁親王御参拝、昭和五十一年十月二日には浩宮徳仁親王（今上陛下）御参拝と皇族の御参拝が相次ぐのである。

明治天皇は飯能町に二泊され四月十九日朝五時御発輦、この日は阿須村、黒須村を経て所沢に御泊りであった。この日の『桜陰筆記』に大記は次のように記した。

「宮ノ桜花十五日ニ開き、

今日ハ色衰たり」

「大宮組のお精進様」

古くから近郷の村々では年に数度「お日待ち」と称する行事をおこなってきた。日を待つというのは、神事に際して身を清め、慎み、宵から日の出にかけて神の訪れを待つ事に由来する。故にお日待ち行事は、元々信仰に基づくものであるが、一方で飲食を共にして過ごす事で、組の親睦や結束も深めてきた。テレビやラジオなどが普及する以前は、こうした地域の交わりが住民のささやかな楽しみであった。

高麗神社は、その昔「大宮」と呼ばれていた。故に鎮座する地域の小字は今でも大宮と呼ばれ、住人の集まりを大宮組と称する。大宮組では、七月に恒例の「お精進」を行っている。

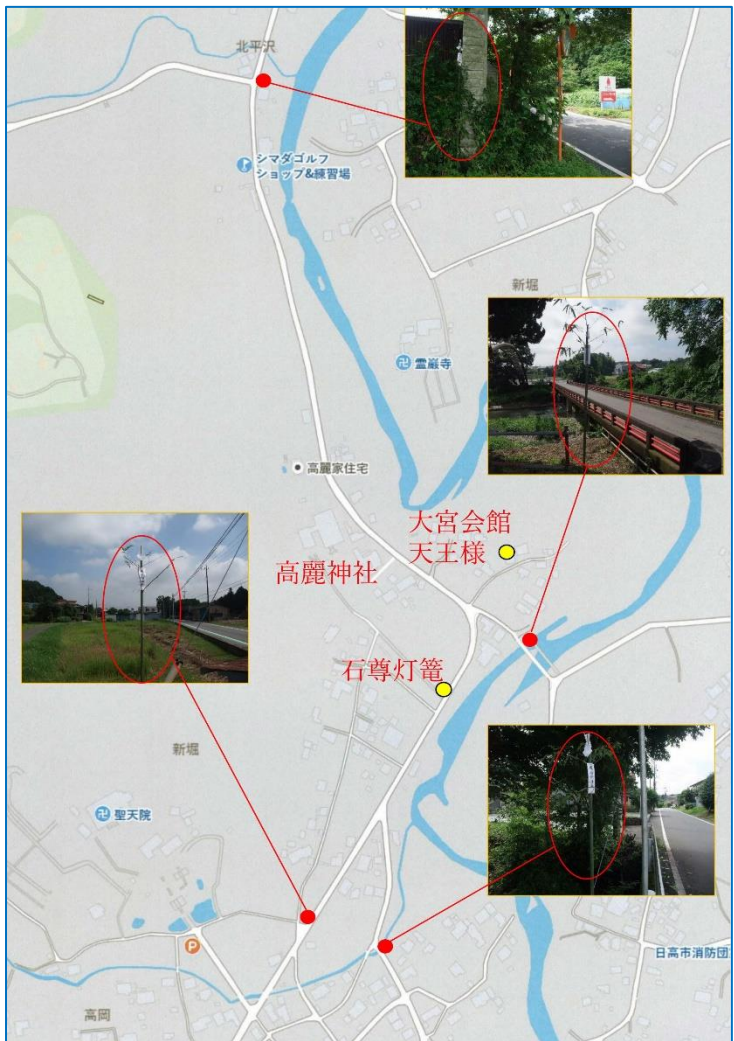
お精進は本来仏教行事で、ひたすら仏道修行に励む事を意味するが、民間信仰の中で仏道の「お精進」と神祭りを意味する「お日待ち」とが融合し、神仏の御加護を願う事の大意にも使うようになった。故に「お精進様」という呼称も神仏諸々の御力の発動を願う意味と考えられる。大宮組のお精進は、現在「防ぎ」「天王様」「石尊様」の三つの信仰を合わせて行っている。古い記録が無いため、その始まりは定かではないが、これは江戸時代にも他地域で盛んに信仰されており、おそらく古い時代から行われて来たと推測できる。時期についても防ぎは春から夏の頃、天王様は京都 祇園祭と同じ七月、石尊様は大山阿夫利神社の夏祭の七月と各地に同様の例があり、合わせて行うようになったのも季節が近いためだろう。今に至るまで様々に変容したであろうが、ここでは現在 大宮組で行われている行事を個々に解説する。

【防ぎ(ふせぎ)について】

神社の準備表にある「魔我除神璽」は、防ぎと言われる災厄除け、特に疫病を防ぐ意味で行事に使用する。大宮組では、二メートル程の竹竿の上部に幣束を挿し、魔我除神璽の御札を竹にくくり付ける。これを四組作り、大宮地区へ進入する道の境界、四ヶ所に立てる。御札の中には、「猿田彦命・八衢彦命・八衢姫命」の神名が記されている。三神は、道を司り、境界で災厄となる疫病の侵入を防ぐと信仰されている。



大宮地区四ヶ所に立てる「防ぎ」



【準備について】

大宮組では、現在七月後半の日曜日を「お精進」と定め、組員で幣束や紙垂替えなどの作業にあたる。高麗神社の年間行事準備表の七月欄には「大宮組お精進様」と題した覚書がある。神社では左記の物を準備し、行事前に大宮組へと渡す事になっている。

- 七月 大宮組お精進様
- 準備 魔我除神璽 四体 幣束 小四体
- 天王様・・・幣束中一体、幣束小一体、十六丁べ一組
- 石尊様・・・幣束小一体、十六丁べ一組

【天王様について】

大宮会館前の八坂神社には、天王様(牛頭天王)が祀られ、疫病(伝染病)を防ぐ神として信仰されている。全国の八坂神社の本は、京都市東山区に鎮座するお宮で、特に七月の祇園祭は、八六九年に疫病退散を願い始まったとされ、祓え儀式や山車、鉦、風流踊があり、その様子は全国の夏祭の形式を生み出す源流とされている。

大宮組では、幣束や紙垂を交換し、他「防ぎ」などの作業を終えた後、集合して皆で拝礼している。その後、大宮会館にて飲食をしながら懇親の時間が設けられている。



行事の最後に二拝二拍手一拝の拝礼を行う



大宮会館前に祀られている八坂神社

【石尊様について】

石尊様は、神奈川県伊勢原市の大山と呼ばれる標高一二四二メートルの霊山に由来し、山頂の霊石を石尊大権現と号して崇めた事によるもの。山の中腹には、大山阿夫利神社が鎮座している。「阿夫利」とは、大山の別名である雨降り山を意味する。常に湿気が立ち込め、雨を降らしている事からであり、古来より雨乞い信仰の中心地としても崇敬されてきた。

大宮組の石尊様は、高麗神社一ノ鳥居そばに立つ石尊灯籠が信仰の寄りどころとなる。行事では、石灯籠の周りに、竹としめ縄で境界を設け、台座の前に幣束を立てる。



石尊灯籠の台座前には小さい幣束が差し立てられる



石尊灯籠の周りに竹としめ縄で境界を設ける作業の様子

【結びにかえて】

令和二年は、新型コロナウイルスにより各所で行われて来た多くの行事が中止や縮小の難にあった。後世へ伝えていく上で、この記録が、少しでも行事振興の力になれば幸いである。

神社さんさん

版木と宝印

—大宮御宝印札の復活—

現在、大宮御宝印札（おおみややごほういんふだ）は、高麗神社の祈年祭（春のお祭り）の際に、氏子の家々に配布されています。各地の社寺に伝えられている牛玉宝印（ごおうほういん）の一種です。



写真1 大宮御宝印札版木 表面



写真2 江戸時代の大宮御宝印札

牛玉宝印とは、災厄除けの御札で、「〇〇牛玉」や「〇〇宝印」などと記してあります。牛黄（ごおう）牛の胆石から精製される薬（を朱に混ぜ押印したことが、牛玉という名称の由来とされています）。

カラスを图案化した熊野三山（熊野本宮大社・熊野那智大社・熊野速玉大社）の牛玉宝印は、特に有名で、鎌倉時代以降、裏面に起請文（きしようもん 誓約書）を書くのに広く用いられて

ました。

高麗神社に現存する版木（写真1）は、江戸時代の延享年間（一七四四〜一七四八）のもので、版木の裏面には、「大宮」「下高岡」「高麗町」など、配布先の村名と軒数が記されています。

高麗家の幕末の記録「水鏡」には、三月十五日の大般若経転読の際に、「村役人ヨリ家別ニ配ル、小札一枚・牛王一枚ツ、」と記されています。明治以降、約百三十年間頒布されなかつたため、版木は現存するものの、宝印の種類と押印位置が不明になっていました。

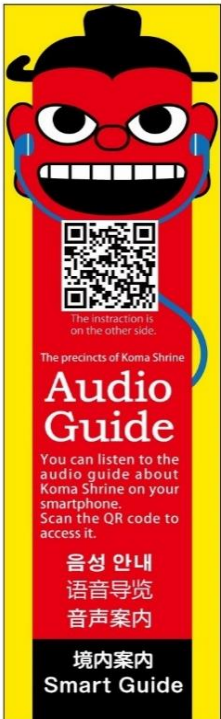
高麗家文書の整理で、江戸時代の大宮御宝印札（写真2）が発見され、平成十九年から頒布を再開することができました。

神棚に安置する、玄関や雨戸に貼る、竹や木の枝に挟み田畑に立てる、などの方法でお祀りして下さい。

大宮御宝印札は、毎年二月に札場にて頒布をしております。 初穂料・七〇〇円

◆「音声ガイド」導入のお知らせ

当社では、ご要望に応じて職員による境内案内を行っておりますが、状況により繁忙期の対応や外国の方への説明が行えない事がございます。これを補助する為、このたび音声ガイドシステムを導入いたしました。手持ちのスマートフォンを使い、QRコードを読み取るだけで簡単に神社各所の説明を聞く事ができます。日本語の他、英語・韓国語・中国語も用意しておりますので、ぜひご利用ください。



境内に設置の看板 音声ガイド QRコード

編集後記

担当・保々

本紙編集作業の中で、ふと思った事は、先人達は「待つ」という事を時に有意義に過ごしていたということ。先日、ラジオで冒険家の野口健氏と荻田泰永氏の対談が放送されました。両氏は、冒険中に天候で足止めとなった際、どうしているかの問いに「待つほかない」と答え、更にコロナにより冒険が出来ない中で、どうしているかの問いには「執筆や本を読み漁るなど、今出来る事をしてる。受動ではなく能動的に待っている」と答えました。先人や両氏に習い、待つという時間を有効に生かし、明日の歩みに備えて行ければと思います。

「祈願 随時受け付けております」

* 毎日8時30分〜17時00分（12/31は、14:00まで）
* 「ご予約の必要はありません。」

* 初宮詣・七五三・ランドセルのお祓い（3月上旬〜4月上旬）
人生儀礼各種・商売繁昌・厄除け・方位除け・車お祓い
出世開運・病氣平癒・健康祈願・合格祈願・心願成就 他

* 高麗神社々務所 埼玉県日高市新堀833 電話 042-989-1403

